

研究だより



香川大学教育学部 附属坂出小学校

< 目 次 >

新年度に向けて	1	総括的な評価・評定についての取り組み	7
平成15年度の研究に向けて	2～3	第87回教育研究発表会のご案内	8
これまでの授業実践より	4～5	本校書籍近日刊行のお知らせ	
朝学習での新しい試み	6	あとがき	

新年度に向けて

校長 ^{たか}高 ^い井 ^{ただ}忠 ^{よし}昌

平成14年度は、教育改革元年といわれるように、様々な変化が教育界にありました。完全学校週5日制、新学習指導要領の全面实施、教職10年経験者研修の法制化をはじめとする教員の資質向上に向けての取り組みなど、学校は大きな変化の中にいます。

附属坂出小学校も平成14年度は、いろいろなことに取り組みました。まず、平成12年度から文部科学省の研究開発の指定を受けた研究が、今年度は最終年次を迎え、附属幼稚園・附属坂出小学校・附属坂出中学校・附属養護学校の附属坂出学園4校園合同の研究発表会を開催しました。幼・小・中一貫した新教育課程や特別支援教育についての取り組みなどを公開し、参会者の方々から有意義なご意見をいただくことができました。また、「研究だより」の創刊、マスター・ティーチャー・プログラムへの参加によるアメリカの小学校との交流など、本校の取り組みを発信することもできました。さらに、創立90周年の記念式典を行い、子どもたちと教職員が、新たな歴史を築いていこうと決意しました。今年度の成果や課題を、新年度の取り組みに生かしていきたいと考えています。



第87回教育研究発表会を5月29日(木)・30日(金)に行います。研究テーマとして『21世紀を切り拓く「確かな学力」の向上 - 「基礎・基本」の保障と「豊かな学力」の伸長 - 』を掲げています。本校では学力を「基礎・基本」と「豊かな学力」と捉え、子どもたちに補充的な学習と発展的な学習とにより、「確かな学力」を向上させたいと考えています。特に、「思考力」の育成と評価に絞り、実践授業を通して研究成果を公開できればと思います。多くの方々にお越しいただき、忌憚のないご意見をいただければ、ありがたく存じます。よろしく願いいたします。

< アメリカ人教員
バリーさん来校 >



< 全校生合唱 >

また、平成15年度もマスター・ティーチャー・プログラムへの参加が決定し、6月～7月にはアメリカの小学校教員が本校に滞在します。総合的な学習や英語教育にも有効に関連させていきたいと準備を進めているところです。

平成15年度も大学、教育委員会、公立学校、PTAなどとの連携を深めながら、教育活動に邁進していきたいと思ひます。

今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

● ● ● 平成15年度の研究に向けて ● ● ●

「確かな学力」の向上に向けて

今、学校教育では、全ての子どもに対して基礎・基本を確実に身に付けさせるとともに、理解の進んでいる子どもに対しては、発展的な学習によってさらに力を伸ばしていくことが求められています。

このことを受けて、本校では、学力を以下のような「基礎・基本」と「豊かな学力」の2つの層から捉えました。

— 「基礎・基本」とは —

学習指導要領に示された内容についての学習を通して身に付ける資質・能力です。
全ての子どもに保障したい学力であると考えています。

— 「豊かな学力」とは —

「基礎・基本」を十分に身に付けている状態から、発展的な学習などによって身に付ける資質・能力です。

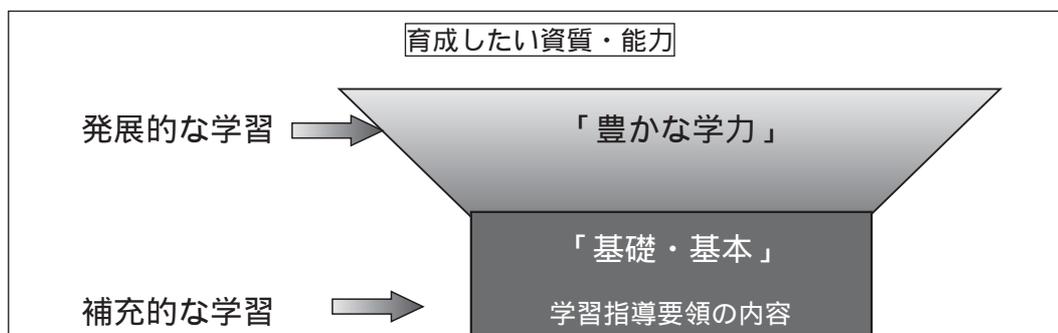
英語科の学習で身に付ける「自他の文化理解と英語によるコミュニケーション能力」、未来学習（総合的な学習）で身に付ける「実の場における情報活用能力・コミュニケーション能力」も含まれます。

— 「基礎・基本」と「豊かな学力」の関係 —

各教科における「基礎・基本」と「豊かな学力」の境界ですが、「基礎・基本」の上限、つまり学習指導要領の内容を十分に満足できている状態は「豊かな学力」の始まりであると考えます。

学習指導要領の内容を十分理解している子どもは、その内容にとどまらず発展的な学習に取り組みさらに力を伸ばすわけですが、そこで得られる学力は「豊かな学力」に相当すると考えます。

一方、補充的な学習において培う学力は、言うまでもなく「基礎・基本」です。



「思考力」の育成と評価に向けて

学習指導要領で各学年に位置付けられた内容は、その学年で取り扱う学習の対象とそこから身に付ける知識や技能を中心に述べられています。したがって、「知識・理解」や「表現・技能」といった観点についての「基礎・基本」と「豊かな学力」は容易に判別しやすく、全国の小学校でほぼ一律であると言えるでしょう。

それに比べて、「思考・判断」や「関心・意欲・態度」の観点についての「基礎・基本」と「豊かな学力」は捉えにくいものとなっています。

また、文部科学省の実施した全国一斉学力調査や、香川県教育委員会の実施した学習状況調査からは、この「思考・判断」の資質・能力に値する「創造する力」や「考える力」の低下が確かめられたのです。

こうした状況を受けて、本校は、平成15年度「思考力」の育成と評価に絞り研究を進めていきます。

そもそも、「思考」は、子どもたちの内面で行われるものであり、長期に渡って少しずつ培われるものです。また、各教科で「判断力」「感受力」「想像力」「問題解決能力」と様々な言葉が用いられ、拡散・集中、具体的・抽象的、論理的・直感的と、その働き方も多様です。

そこで、私たちは、まず、各教科で育成したい「思考力」がどのようなものなのかをより一層明確に捉える必要があると考えました。そこでは、各教科独自の用語や認知心理学等の学術用語によって分析・規定することよりも、学び手たる子どもたちの姿として、どのように考えることが大切なのかをしっかりと捉えていきたいと思っています。

そして、各教科で捉えた「思考力」を授業で育成するための支援の在り方と、その評価の在り方を研究発表会や次号からの「研究だより」などを通じて提案していくつもりです。

なお、ここでは、そうした授業レベルでの支援と評価の前提となる、単元レベルでの考えを説明します。

単元レベル

単元相互のつながりと指導・評価

「思考力」は長い時間を要して徐々に高まっていきます。そこで、「思考力」を育成する場合は、継続性をもって各単元に位置付けていく必要があります。

単に、各単元や各時間に育成したい「思考力」を独立して存在させるのではなく、それらが共通性・連続性をもって単元内や単元相互に計画的に位置付くこと、それに対して指導と評価のサイクルが単元を超えてつながることが大切です。

各単元のデザイン

「思考力」は自分の中にある情報を外界にあるものと結び付けたり、関係付けたりする中で発揮されます。つまり、このような行為が自発的に行われる問題解決過程でこそ育成されるのです。そこで、私たちは以下のような学習場面の位置付けや工夫を重視したいと考えています。

「経験」の想起と耕し	「集団吟味」の活性化	「転移」の場の位置付け
「経験」を想起する場面や「経験」を耕す場面の設定	価値判断場面の設定や「相互作用重視型」少人数指導の実施	異なる問題の設定における「思考力」の活用

思考の手続きの練習

「ものを比べるときは、共通なところと異なるところというように分類してみることが大切なんだな。」子どもに身に付けさせたい「思考力」には、情報への着眼点や思考を進める手続きの明確なものがあります。子どもにとってよりよく考えるコツとも言えるものです。こうした部分を取り出し、繰り返し経験させることも大切になります。そこで、そうした思考の手続きを練習する場を設け、その効果を検証しています。

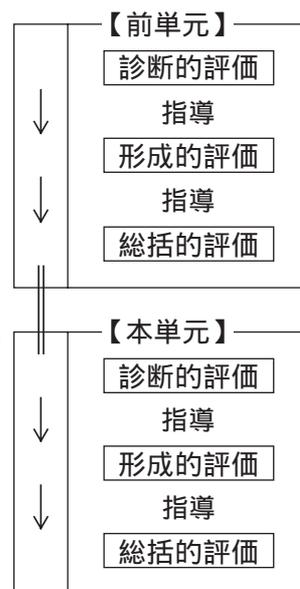
「習熟度重視型」少人数指導の実施

「思考力」にも、個人差があります。

そこで、国語、算数、理科においては「習熟度重視型」の少人数指導に取り組んでいます。自分の習熟度に適した学習コースを自ら選択し、少ない人数の中でよりきめ細かな指導や支援を受けることによって、これまで以上に「思考力」を伸ばすことが期待できると考えています。

支援・評価レベル

先にも述べたように、私たちは今、各教科で培いたい「思考力」の「基礎・基本」と「豊かな学力」を明らかにし、そのための支援の在り方、評価方法についての研究を深めているところです。



これまでの授業実践より・・・

社会科 第3学年「農家の仕事 - 金時にんじんづくりを通して - 」 学習指導者 合田 雅気

「種まきの作業は楽か？」

子どもたちが前々時からこだわってきた問題です。

「楽」派23名、「楽でない」派12名、「どちらともいえない」派5名の三つどもえの様相となりました。本時は、「楽」派が主張している「機械を使っているから」という根拠に話し合いの焦点が当たりました。

「その機械はどの農家も使っているものなのですか。」

「畝の高さが80cmもあって、ぼくの足より随分高いのに、その機械が本当に使えるのですか。」

質問が集中します。

「私の資料を見てください。そこには畝の上に機械をのせて、2人で引っ張っている様子がのっています。」

「でも、機械はライン引きのようなものだから、広い畑で、暑い中で、大変とは思わないのですか。」

話し合いは混沌とします。しかし、子どもたちは自分の経験と結び付けて事象を解釈しながら、友達に納得してもらえるように必死で主張します。そのがんばりにこそ、「思考力」の伸長を図る鍵があると考えます。



くらし（国語）第1学年「ふゆのあそびをたのしもう」 学習指導者 森山 敬三

本校では、幼・小連携の一つとして、小学校低学年に「生活という大きな文脈の中で総合的に展開される学びのスタイル=くらし」を取り入れた授業実践に取り組んでいます。

本時は、幼稚園の子に、冬の遊びを紹介するために書いてきた説明原稿を用いて、「幼稚園の子に分かり

にくいことばがあったら・・・？」という問題意識の基、「書くこと」における「思考力」を高めたいと考えました。

話し合いや教材文の調べ読みを通して、「意味を説明する文」の必要性に気付いた子どもたち。幼稚園の子という相手意識の基、自分の紹介文の分かりにくいことばに を付け、「意味を説明する文」を書き加えていきます。

また、「意味を説明する文」を挿入するにあたっては、主語を省略した文を提示することで、主述の関係に気を付けながら文を書こうとする能力も高めていきました。



社会科 第6学年「みんなの願いとわたしの願い」 学習指導者 佐柳 仁

本校の西を走る県道富士見町線。この拡張工事に対する住民の願いとそれを調整する政治の働きを、これまでの経験や家族の声、県坂出土木事務所の方へのインタビューを基に描いていきました。そして、道路がよくなる反面、周辺に暮らす多くの住民が立ちのかなければならないことに気付きました。

「立ちのきたくないという住民の願いを県（政治）はかなえてよいか？」

市の発展や道路の安全性などたくさんの人々の願いをかなえるべきで、少数派には目をつぶるしかない。多くの子どもはこのような一面的な思考に陥っていました。現実社会における問題解決を思うと、ある目的に向けて多面的にアプローチする思考を培う必要があります。

そこで、本時では沿線の家に自宅をあてはめ、立ちのく際の心情を想像する場面を設定しました。そうすることで、子どもは社会の発展だけでなく、立ちのき住民への対処が県の行為として欠かせないことに気付き、異なる視点からも考えることができるようになりました。



国語科（少人数指導）

第3学年 「地いきのお祭りや行事をしょうかいしよう」

学習指導者 金崎 知子 森山 敬三

自分の住んでいる地域の祭りや行事を、時間を表す言葉を使って順序よく書こうとする「はっきりコース」と、数を表す言葉や言葉の足し算を使って書こうとする「いきいきコース」に分かれて、「習熟度重視型」の少人数指導を行いました。

はっきりコース

読む人に分かりやすい紹介文にするために、教材文や友達の紹介文から、時間を表す言葉を使うことよさを学びました。そして、自分の紹介文に、「1か月ぐらい前から」「1週間前には」などの時間を表す言葉を書き込んでいくことによって、時間の順序が逆になっていたり、同じ時期の事柄が全く別の場所に書かれていたりすることに気付くことができました。そして、時間の順序や話のまとまりに気を付けて文章を書くことを、自分の作文に生かしていました。



また、友達と紹介文を読み合いながら、互いの表現のよさを見つけたり、自分の表現に生かしたりと、学び合う楽しさも味わうことができました。

いきいきコース

文章の順序を入れ替えた4年生の教科書教材。

「この言葉（時間）から、～の順だよ。」

と、時間を表す言葉に着目しながら、正しい順に並べ替えました。

また、教材文を読みながら、時間だけでなく、長さや太さなども数で表すと読み手に様子がよく分かることを実感し、自分の書いてきた祭りや行事の紹介文を見直しました。

さらに、教材文中の言葉の足し算（例：ふりしきる）を、ふつうの言葉（ふる）にした場合と対比し、その言葉のよさに気付いた子どもたち。

「ことばの足し算はむずかしいなあ。」

と言いながらも、辞書を調べたり、友達と相談したりしながら、自分の紹介文に取り入れようとしていました。



理科（少人数指導）

第5学年 「物のとけ方のひみつを探ろう」

学習指導者 横川 勝正 長船 准児

「水の温度を上げると、水にとける物の量は増えるのだろうか？」という課題を、実験を通して調べていきました。とかす物としてミョウバンを取り上げた本時では、条件制御の方法をみんなで確認してから実験に取り組む「じっくり取り組もうコース」と、自分の考えた実験方法を基に、物のとける規則性を見つけていこうとする「自分で進めていこうコース」とを編成し、子どもたちがコースを自己選択しました。

じっくり取り組もうコース



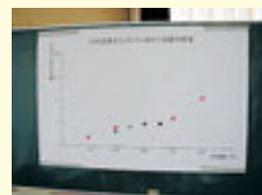
まず、教師の出題した「間違い探しクイズ この実験方法でいいのかな？」を解きながら、「どんなことに注意して実験すれば正しい結果を出すことができるのか」を考えました。

そして、条件制御の考え方を確認した後、実験に取り組みました。学習終末には、それぞれのグループが調べた結果を1つのグラフにまとめ、気付いたことを話し合う中で、「水の温度が高くなればなるほど、とける物の量が増える」ことを発見しました。



自分で進めていこうコース

水の量を2倍、3倍に増やしていくと、物がとける量も2倍、3倍に増えていった前時の実験。この実験結果から、「水の温度が10 20 30 と高くなっていった場合にも、同じような規則性をもってとける量が増えるのではないか」という予想に



ついて話し合いました。

そして、この予想を基に自分の考えていた方法を見直したり、工夫を加えたりしながら実験を進め、「水の温度が高くなるととけるミョウバンの量は増えるが、2倍、3倍などの規則性はないようだ」ということを捉えました。

● ● ● 朝学習での新しい試み ● ● ●

論理的な思考を活性化する朝学習

本校では、8:25～8:40の15分間を朝学習の時間にあてています。水曜日は、体育館朝礼を行います。火曜日と金曜日は「イングリッシュタイム」として、英語のビデオを全クラスが視聴しています。週1時間の英語の授業と合わせて子どもたちの英語のヒアリングや発音の向上に役立っているように思います。

また、月曜日と木曜日はそれぞれ算数と国語の「ドリルタイム」にしています。ここでは、漢字や計算の練習を行う一方で、子どもたちの論理的思考力を活性化するため、3学期より6年生では国語科「ロジカル・トレーニング」、5年生では算数科「算数ワールド」を試行的に行っています。今後、内容や実施時間・学年を検討して充実させていきたいと考えています。

国語科「ロジカル・トレーニング」

論理的に書いたり、読んだり、話したりするためのスキルを取り出して、クイズ形式で「ロジカル・トレーニング」を行っています。子どもたちは、朝の時間や国語の時間の最初5分程度を使ってこのトレーニングに意欲的に取り組んでいます。

例えば、「結論を説明するための例としては何がふさわしいか」「つなぎのことばとしてどれが適切か」など × 形式の問題を主として、2分以内に解答し、その問題について分かりにくかったところを交流したり、感想を述べ合ったりしています。

6年生の「ロジカル・トレーニング」では、これまでに学習したことを基にした問題や、「主張と根拠の整合」といった、まさに今、学習していることの論理的な要素を含み込んだ問題を作成するようにしています。



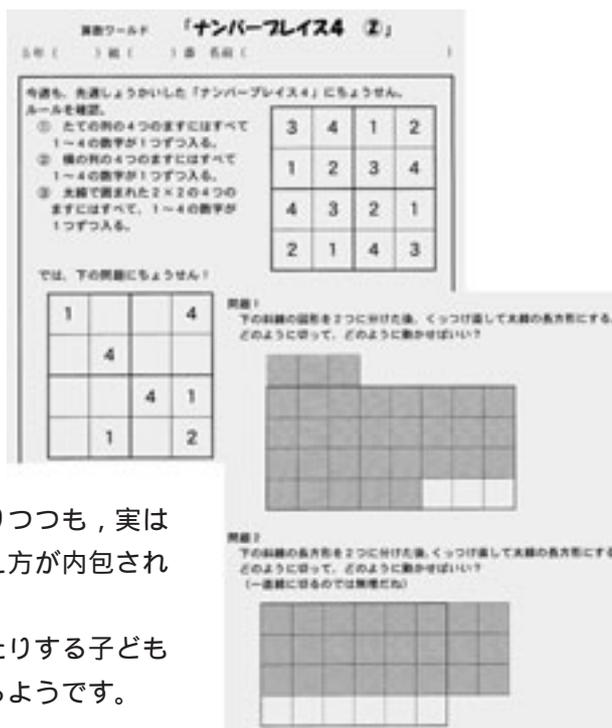
算数科「算数ワールド」

子どもにとっても、ひらめきと論理で問題を解き明かす楽しみなひとときのようです。

毎週、魔法陣やナンバープレイス等の「数と計算の問題」、地図上の最短距離を見抜く等の「図形問題」、会話文から真実を導く等の「論理パズル」、油分け算や裁ち合わせ等の「伝統的問題」の4種類を出題し、どのテーマのプリントも、問題の説明、問題の意味やルールを把握する容易な問題、少し手強い問題で構成しています。

普段の学習から離れたクイズ・パズル的な問題でありつつも、実は既習の考え方やこれから学習する内容の基礎となる考え方が内包されている問題を作成するよう心がけています。

思わぬ考え方を発見したり休み時間にも挑戦を続けたりする子どもの姿も見られ、算数の楽しさを味わう時間となっているようです。



● ● ● 総合的な評価・評定についての取り組み ● ● ●

本年度、集団に準拠した評価（相対評価）から目標に準拠した評価（絶対評価）に変わり、どの学校でも整備が進んだことと思います。保護者の皆様にとっても、通知票「学びのたより」や指導要録などの総合的な評価は、日々の学習状況をどのような目標と基準（「学習状況の判断基準」）で把握し、それらをどのように集計・総括していくか（「総括方法」）に対して、関心が高いことと思います。

本校でも、子どもたちの進学先である附属坂出中学校とも相談し共通性のある「総括方法」を定めるとともに、「学習状況の判断基準」の作成を行ってきました。そのあらまは前号までにお伝えした通りです。

なお、3学期には、私たちがどのような目標について学習状況を把握したか、その判断に用いた全項目を子どもたちや保護者の皆様にお伝えするプリントを配布しました。

単元末・学期末のテストについての評価

「92点だったよ。もうひとがんばりだったなあ。」

子どもたちにとっても、評価の場としての意識が高い「テスト。」

特に、本校では、各学期の学習内容に対して「期末テスト」を実施しており、子どもたちもこのテストでよい結果を得ようと一生懸命に励んでいます。そして、テスト結果が返却されるときには、当然ながらその総合得点に一喜一憂しています。

では、こうしたテストの結果はどのように総合的な評価に結び付いているのでしょうか。

本校におけるこうしたペーパー・テストについての評価のしくみを説明します。

まず、テストの作成・実施にあたっては、上に述べた判断項目に対応した問題を組み合わせています。

例えば、「この5問は、10000までの数のしくみが分かる（知識・理解）の項目を評価するもの」、「これとこれは、示された図からよみとった考え方を式に表現することができる（思考・判断）の項目を評価するもの」というふうにです。算数科の表現・処理の技能や理科の知識・理解など100%テスト結果から評価する観点もあれば、各教科の関心・意欲・態度など評価方法にまったくテストを用いない観点もあり、そのウェイトは本校の「総括方法」として規定しています。

テストの難易度によって判断基準が揺れないように、そして総合得点という大まかな到達度によって評価することがないように、先に「テストありき」ではなく「判断項目ありき」の考え方で実施しているのです。診断・形成・総括と、子どもと教師が単元を通して身に付けようとした努力の成果を正確に捉え、子どもたちや保護者の皆様に伝えられるようにしたいと願っています。

今回の「期末テスト」も学習状況の判断基準を基に作られました。

以下は、その1例です。

< 6年社会科 3学期末テスト抜粋 >

- (1) 私たちの税金は「点字ブロック」や「段差のない歩道」など、体の不自由な人のためにも使われています。どうして、健康な人から集められた多くの税金が、このような人たちのためにも使われるのでしょうか。 【思考：4点】
- (2) 地域をよりよくするために私たち住民ができるのはどのようなことでしょうか。下の文を読んで、正しいと思うものには をつけなさい。 【思考：4点×4】
- () 税金をきちんとはらう。
 - () 選挙に行き、議員にふさわしいと思う人に投票する。
 - () 地域で困っていることやよくする考えを市や県に伝える。
 - () 地域に落ちているごみを自分から進んでそうじする。

● ● ● 第87回附属坂出小学校教育研究発表会のご案内 ● ● ●

21世紀を切り拓く「確かな学力」の向上

「基礎・基本」の保障と「豊かな学力」の伸長

とき 平成15年5月29日(木)・30日(金)

場所 香川大学教育学部附属坂出小学校

研究内容

各教科における「思考力」の育成とその評価の在り方

- ・ 各教科・領域等という軸と発達段階という軸からの分析・明確化 - 目標レベル -
- ・ 単元相互あるいは単元内における指導と評価の在り方のモデル化 - 単元レベル -
- ・ 各教科における有効な支援方法の明確化とその実践・検証 - 授業レベル -
- ・ 各教科における学習状況の判断基準・判断方法の明確化 - 評価レベル -

「国語」「算数」「理科」における有効な少人数指導

新教科英語の開発と実践

経験を統合し生き方を創る未来学習(総合的な学習)

なお、各学校、教育機関におかれましては、第2次案内(4月下旬)にて詳細をご覧ください。

● ● ● 近日刊行予定! ● ● ●

「成功する!少人数指導」(明治図書)

昨年11月の本校研究会にご参会された先生方には、本校の少人数指導についての考え方や実際の取り組みをまとめた「少人数指導ハンドブック」を無料で贈呈いたしましたが、近日、明治図書より具体的な実践例を充実させた本書の改訂版「成功する!少人数指導」が刊行されます。

どうぞ、お楽しみに!

あ と が き

平成14年度、創立90周年を迎え私たちは21世紀を切り拓こうと研究を進めてきました。文部科学省の開発指定を締めくくる幼稚園・中学校・養護学校との合同研究発表会。「少人数指導ハンドブック」に好評を得て、改訂版を全国に出版する少人数指導の実践。基本線の整備に始まり、保護者の皆様に評価・評定に用いた全項目を伝えるに至った絶対評価の在り方。この「研究だより」も新しい試みの一つでした。

そして今、研究発表会を目前に控えた平成15年度の幕開けに際して、21世紀を切り拓く子どもたちの学力の保障と伸長を願い、研究を進めんと決意を新たにす私たちです。

編集委員

西原 明 真鍋 佳樹
長船 准児 森山 敬三
佐柳 仁

平成15年4月1日

香川大学教育学部附属坂出小学校

TEL 0877-46-2692 FAX 0877-46-5218

E-mail sakai.de@ed.kagawa-u.ac.jp